

異文、段氏曰、許書無螻字、淺人增虫耳、當作蚤、按說文、螻、蟲也、亦非此義、郝氏曰、方言作蚘、螻、夏小正作蛄、螻、廣雅作蛄、螻、說文作螻、螻、淮南子道應訓注作蛄、螻、今東齊人謂之德勞、或謂之都盧、揚州人謂之都螻、皆語聲相轉者、中本草和名、螻、螻、在蚱蟬條、別無和名、今俗呼、都、久、都、久、保、宇、之、證、類、本草中品、蚱蟬條引云、七月八月鳴者名螻、螻、本草和名引云、螻、螻、八月鳴者、恐輔仁所引誤、脫七月字、源君襲其誤也、按陶云、七月八月鳴者名螻、螻、色青、郝云、今德勞正以七月鳴、其鳴自呼、其色青碧、形小、修長、順天人謂之夫、爹、夫、娘、者也、鹽鐵論散不足篇云、諸生獨不見季夏之螻乎、音聲入耳、秋風至而無聲、今此蟬、八月中即不鳴矣、則當是江戶俗或呼衣、蟬、秋末盛鳴、其聲如謂、民、々、者、源君訓、久、都、久、都、保、宇、之、非、是、

〔類聚名義抄〕十螻螻 クツク ホウシ

〔物類稱呼〕二物、螻螻 つくく ばうし 上野にてほつてうと云、近江にてつくしこひしと云、今按に俊頼朝臣、うつくしよしと蟬の鳴らんと詠じ給ひしは、つくくくばうしにやあらん、

〔和漢三才圖會〕五十三螻 螻 螻 螻 螻 螻 和名久豆久豆保宇之中

按小於蟬而略團、其頭褐色、身及羽淺青色、鳴聲如言久豆久豆法師、故名之、關東則多有而畿内希、

〔重修本草綱目啓蒙〕二十八蚱蟬中

螻螻 ハ。ミン。ミン。ミン。ミイ。ミイ。ミイ。作州。メン。メン。メン。加州。ビイ。ド。ロ。勢州。形大ニシテ馬蜩ノ如ク、

羽スキトヲレリ、秋末盛ニ鳴テ自ラ呼ブ、

〔蜻蛉日記〕下ノ中八月ついたちの日雨ふりくらす、ひつじの時ばかりにはれて、つくくくほうし、いとかがましきまでなく、

〔小野宮右衛門督家歌合〕はきものならべたるいのりの師、はきものをふたつならべて、つとめこじくつくほうし、いづくこ成らん、